

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600636		
法人名	有限会社新名防災設備		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地	香川県仲多度郡多度津町葛原451-1		
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果市町受理日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3771600636&SCD=320&PCD=3771600636
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を充実させ、その人の希望を叶え、楽しく笑顔で過ごす時間が多い事業所を目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

環境面では、天井以上屋根のところまで防護壁が貼ってあり、火災の時に、煙が回らないよう安全を考慮した建築にしている。居室は抑圧感のないドアであり、居間は色彩が柔らかく、運動会ができる広さで、毎年運動会を企画し、参加者には表彰状を渡すなど、利用者の楽しみになるよう工夫している。また、特殊浴槽を整備し、車椅子でも安全に十分温まることができる。職員は支援記録を書くことで、利用者への気づきが増え、介護計画に反映している。職員・事務長との連携はよく、状況報告、相談、判断、実践と利用者に合わせて柔軟な対応に心がけている。また、学習意欲もあり、急変時の対応について、時間をみてAED(自動体外式除細動器)の使い方を練習するなど、利用者が常に安心して生活できる支援を目指している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム青い鳥(1階)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時に復唱することで、理念を自分自身の行動に活かしている。	開設前考えていた理念を、事業開始後、利用者が楽しく過せるために、どう関わればいいのかを示したものに作り変えたが、地域密着型サービスの意義・役割を含めたものには至っていない。理念は日々復唱したり、新採用時から理念にかなう対応について共有し実践につなげている。	理念は職員が利用者への対応について、常に立ち戻る考え方が示されているが、地域密着型サービスの事業所として、何が大切かも含めた考えが示されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議やボランティアの受け入れ等により、少しずつではあるが、地域の方との交流が増えてきた。また散歩の時などにも挨拶をすることで、日々の交流の機会を増やしている。	事務長が町の介護相談に関わったり、事業所見学要請時は受け入れている。近い地域では老人会長との連携もあり、利用者が散歩時に声かけや花・野菜をいただくなど交流があるが、一部の地域では、つながりが難しい。	極近くで、一部の地域との交流が難しい。事業所にはAED(自動体外式除細動器)を整備しており、地域に貢献できることをアピールするなど、利用者が地域で暮せる工夫が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などを中心に随時支援方法等、地域で役割が持てるよう努力している。今年度は町内の介護教室で講義を行い、老人会や地域のグループに説明会や見学会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告等を行い、家族等の参加者の意見を取り入れながら、随時サービスの見直しを行っている。	会議のメンバーが出席しやすいように、希望開催日を調整している。会議では状況報告、災害対策についての検討や、評価の課題について、職員の対応策に対し、助言や同意を得るなどサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談等を必要に応じて随時行い、助言等をいただいている。	週2回程度、書類提出等で町担当者と連携をとっている。利用者に関係してくるであろう成年後見制度についての講義依頼や、利用者個々の問題対応に助言をもらうなど、ケアサービスの取組みに協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では玄関の施錠は理解を得ている。身体拘束に関しては職員は正しく理解し、事業所全体でしない取り組みを行っている。	身体拘束に関するマニュアルを作成している。職員は身体拘束による利用者の苦痛について共通理解しており、拘束をしないケアの実践に努めている。また、利用者の言動から何がしたいのかを理解し対応している。	

グループホーム青い鳥(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できる状態にある。そのうえで常に指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し、学ぶ機会を持っている。アセスメントなどで、個々の必要性については話し合い、活用できるよう支援を行っている。現在のところ該当する方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階でグループホームのことを十分説明し、理解納得が得られてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や送迎時に家族から出た、意見は責任者に報告し、対処するようにしている。	重要事項説明で、事業所内及び外部の相談窓口について説明している。家族が運営推進会議のメンバーであり、会議で意見・要望を表せる機会がある。また、面会時は、家族から生活の中での意見を聞いたり、馴染みの職員が、利用者の行動等から要望を理解し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時ミーティングを行うことで意見を出し合い、それを基に行事計画等運営に反映させている。	職員同士でよくミーティングをしており、その内容を聞く機会を設け、行事計画等に反映している。事務長は職員が判断しにくい時や解決できない時、気軽に聞く機会を設けている。利用者と馴染みの関係にある職員の意見は、利用者のためと考え、否定はせず話し合い、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況を把握し、個別に指導を行いながら、目的を持ち、やりがいのある環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせた研修に参加させている。希望者は参加できる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修を行ったり、相互評価を行うことで交流を深め、良いところは取り入れることによりサービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な時間をかけてアセスメントを行うことで、要望等を把握し、見学、体験利用を通して安心して利用できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明を十分にしたり、希望や不安点を伺い、利用形態の提案を行うことで良い関係が築けるよう努めている。利用前に体験利用を行うなど、その方の状態に合わせて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その人にあった必要なサービスが提案、提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事や活動を一緒に行いながら、利用者の知恵や知識を職員は学び、共に生活することの喜びを共有しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での生活の状況を伝えたりしながら、家族と事業所が協力して利用者が有意義な生活を送れるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、ゆっくりと過ごしていただける環境を整えられるよう努めている。	家族の面会時に、利用者の昔の仕事、遊びに行っていた場所、親戚などの情報を得ている。事業所では、入居前の馴染みの店の方と利用者が話し合える支援、兄弟・親戚・子ども等の面会時にはゆっくり過ごせる支援、昔遊びに行っていた場所へはグループでドライブするなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域における利用者同士の関係を把握し、互いに関われるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談依頼は継続的に関わり、適時支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにげない言葉や表情を読み取り、できる限り、本人の思い出に添えるよう努めている。	利用者が穏やかな生活の中に笑いがあることを意識し、馴染みの職員が、利用者の希望等をよく聞くようにしている。約半数が意思疎通の難しい利用者であるが、利用者の表情や、以前に言っていた言葉などを大事に、利用者本意に思いや意向を話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて得た情報を職員間で共有し、可能な限りサービスに取り入れ、環境の大きな変化がないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族等関係者の方から十分な確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、随時関係者の意見を取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。	職員が利用者の情報からアセスメントし、利用者個々に何が必要か意見を出している。本年4月から介護支援記録を書くことにより、職員は利用者への気づきが増え、介護計画へ意見・アイデアを反映している。介護計画の見直しは、設定した期間や、支援記録を見直すことで、1か月ごとに確認し見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて日々の様子を記録し、特に情報の共有を必要とすることについては、専用の記録を行い、介護記録に反映させ実践している。		

グループホーム 青い鳥(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に応じたサービスの提供、活用が行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や運営推進会議などを実施し、地域との協力体制を築き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き取り、これまでのかかりつけ医との関係を断つことなく支援している。また医師との連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居時、受診・服薬状況等を把握し、入居後のかかりつけ医受診の希望を、利用者・家族から聞き対応している。かかりつけ医受診は、家族の協力を得ているが、医師への状況連絡や処方箋写し、検査結果、注意点等連携をとり適切な医療が受けられるよう支援している。また、三医療機関からの往診もあり、希望で往診医の医療を受ける利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内での健康管理は看護師を中心に、常に報告相談が行える体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し、担当医師や看護師と情報交換を行っている。また、家族との連絡を密に行い、入退院がスムーズに行えるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、事業所で行える介護状況を説明し、本人、家族の意向や希望を確認し、主治医と相談しながら対応している。	入居時、重度化・終末期のあり方について、利用者・家族に経口摂取が可能な限り対応できることや、医療連携体制があることを説明しながら方針を共有している。職員とも方針を共有認識し、可能な状況での入居中はあたたかく対応するよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、必要に応じて職員に対して緊急対応の助言を現場の活動を通して行いながら、実践力が身に付くよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、定期的に緊急時の対応を確認できるよう働きかけている。また地域住民の方にも声をかけ協力をお願いしている。	火災時の訓練として年2回、昼・夜を想定し、避難訓練、消火訓練(消火器の使い方)をしている。避難訓練では火の元により避難誘導経路は決めており、確実な誘導ができるようにしている。災害対策として、火災時煙・火が回らないように壁は天井以上屋根まで貼っている。また、建物は耐震構造である。災害に備えて水、米は備蓄しているが、他の食料については高齢者に合うものを検討中である。	災害に備えて米以外の食料について検討中であるが、高齢者が食べやすいなど適する商品の情報収集をし、準備できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しながら、誇りやプライドを損ねない対応を行っている。特に排泄や入浴時には尊厳を傷つけないよう対応している。	職員は、利用者を一人の人間として尊重することを常に認識し、対応するよう心がけている。利用者を尊重しプライバシーの確保の対応に関しては、特に排泄、入浴時の対応には注意している。扉を必ず閉めたり、声かけ時の言葉の内容・語調・声の高さや利用者のサインに早く気づくなど、職員間で注意しあい対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常に本人が選択できる環境を整え、自分で選び決めるという喜びを感じられるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に応じた活動を提案はするも、本人の意向を大切に、個々のペースで生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴を把握し、その人らしくおしゃれができるよう支援している。また定期的に美容師の訪問があったり、女性であれば化粧、男性ならば髭剃り等を行える環境をつくっている。		

グループホーム青い鳥(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みは職員が把握しており、細かな献立の工夫が行えている。利用者と職員はできる範囲で、一緒に準備や片づけを行っている。	職員は、食事時の摂取状況や日頃の言葉から利用者の好みを把握しており、献立に反映している。好みのうどん、お寿司は曜日を決め提供したり、希望により外食等にも出かけている。利用者の状況によりお膳拭きを何気なく勧めたり、おやつ時はたこ焼き、お好み焼きなど一緒に行い、楽しむことができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方に対してはその都度、捕食など必要な栄養が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、適切な支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行い、失敗を減らし排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は、一人ひとりの現在の排泄状況より排泄の自立に向けた支援を心がけている。生活習慣、排泄パターンの把握から誘導時間の調整、誘導・介助時の個別の対応、失禁者への早い対応など自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容など便秘予防への対応により、服薬に頼らない排泄を個々に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて、ゆっくりと本人のペースで入浴できるよう、午前と午後本人の意思を尊重した入浴サービスを行っている。	個室であり希望する時に入浴を楽しめる。利用者の希望で入浴剤を使用したり、入浴を拒否していた利用者にも工夫し個々にそった支援をしている。また、特別浴槽を設置しており、車椅子の人でも安心して十分温まることができる。入浴介助時は、不安、羞恥心等に注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身の状況や習慣に合わせた対応をしている。また職員は室温調整にも気を配り、寝やすい環境を提供できるよう努めている。		

グループホーム青い鳥(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師処方の薬の内容はファイルし、担当職員から他の職員に伝達し内容の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた内容を職員とともに活動できるよう支援している。(野菜の収穫、花作り、洗濯、散歩、買い物、外食)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、畑作業等、個々の希望に沿って支援している。また季節を感じていただけよう、季節の花の見学、外食、昔馴染みの地域の訪問など、一緒に外出できるよう支援している。	利用者がその日を楽しんで暮せるように、希望に応じて散歩に出かけている。季節の良い時は花見や菖蒲・コスモスなどを見に行ったり、少し距離はあっても、ドライブを兼ね公園や帰りに買い物を楽しむなど支援している。重度化している利用者には、ウッドデッキで太陽・風に当たったり、そこでのおやつを豪華にするなど楽しめる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族と相談のうえ、状況に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿うよう対応している。		

グループホーム青い鳥(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着き安心して生活ができる空間づくりを心がけている。また季節を感じていただけるよう、館内の飾りを行う工夫をしている。	玄関には植木鉢などを置き、癒しの雰囲気がある。浴室・トイレは手すり等、利用者の安全や清潔感を考慮している。居間・食堂は明るい色彩で心地良い風を感じ、利用者が十分休めるソファを設置している。壁には、職員と利用者が共同で作った季節を感じる作品を飾ったり、外出時の写真や利用者の習字など利用者の生活がうかがえる。また、居間は運動会ができる広さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、椅子、ソファなどの配置を状況に応じて変え、思い思いに過ごせる空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望などを聞き取りながら、使い慣れた物や、好みの物を持って来られることで、安心して過ごせるよう工夫している。	居室にはベッド、タンス、洗面台を設置している。家族には、利用者と相談し、今まで使っていた馴染みの物を置き、自宅との違いを少なくするよう協力を得ている。利用者によってはテレビ、安楽椅子を持参したり、孫からの可愛い人形などを飾り、心地よく過ごせる工夫をしている。また、壁に表彰状や、自分の作品を貼ったり生活を楽しむ工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等の場所の表示を行い、館内の移動が本人自らの意思で行動できる工夫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り時に復唱することで、理念を自分自身の行動に活かしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議やボランティアの受け入れ等により、少しずつではあるが、地域の方との交流が増えてきた。また散歩の時などにも挨拶をすることで、日々の交流の機会を増やしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などを中心に随時支援方法等、地域で役割が持てるよう努力している。今年度は町内の介護教室で講義を行い、老人会や地域のグループに説明会や見学会を行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告等を行い、家族等の参加者の意見を取り入れながら、随時サービスの見直しを行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等を必要に応じて随時行い、助言等をいただいている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では玄関の施錠は理解を得ている。身体拘束に関しては職員は正しく理解し、事業所全体でしない取り組みを行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できる状態にある。そのうえで常に指導を行っている。

グループホーム青い鳥(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し、学ぶ機会を持っている。アセスメントなどで、個々の必要性については話し合い、活用できるよう支援を行っている。現在のところ該当する方はいない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階でグループホームのことを十分説明し、理解納得が得られてから契約を行っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や送迎時に家族から出た、意見は責任者に報告し、対処するようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時ミーティングを行うことで意見を出し合い、それを基に行事計画等運営に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況を把握し、個別に指導を行いながら、目的を持ち、やりがいのある環境になるよう努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に合わせた研修に参加させている。希望者は参加できる体制をとっている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で研修を行ったり、相互評価を行うことで交流を深め、良いところは取り入れることによりサービスの向上に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な時間をかけてアセスメントを行うことで、要望等を把握し、見学、体験利用を通して安心して利用できるよう配慮している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの説明を十分にしたりうえで、希望や不安点を伺い、利用形態の提案を行うことで良い関係が築けるよう努めている。利用前に体験利用を行うなど、その方の状態に合わせて対応している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、その人にあった必要なサービスが提案、提供できるよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各種行事や活動を一緒に行いながら、利用者の知恵や知識を職員は学び、共に生活することの喜びを共有しながら過ごしている。
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所内での生活の状況を伝えたりしながら、家族と事業所が協力して利用者が有意義な生活を送れるよう支援している。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時など、ゆっくりと過ごしていただける環境を整えられるよう努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域における利用者同士の関係を把握し、互いに関われるよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談依頼は継続的に関わり、適時支援をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにげない言葉や表情を読み取り、できる限り、本人の思い出に添えるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて得た情報を職員間で共有し、可能な限りサービスに取り入れ、環境の大きな変化がないよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族等関係者の方から十分な確認を行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、随時関係者の意見を取り入れ、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にて日々の様子を記録し、特に情報の共有を必要とすることについては、専用の記録を行い、介護記録に反映させ実践している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に応じたサービスの提供、活用が行えるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練や運営推進会議などを実施し、地域との協力体制を築き支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き取り、これまでのかかりつけ医との関係を断つことなく支援している。また医師との連携を取りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内での健康管理は看護師を中心に、常に報告相談が行える体制が整っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院を訪問し、担当医師や看護師と情報交換を行っている。また、家族との連絡も密に行い、入退院がスムーズに行えるよう対応している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、事業所で行える介護状況を説明し、本人、家族の意向や希望を確認し、主治医と相談しながら対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、必要に応じて職員に対して緊急対応の助言を現場の活動を通して行いながら、実践力が身に付くよう指導している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、定期的に緊急時の対応を確認できるよう働きかけている。また地域住民の方にも声をかけ協力をお願いしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しながら、誇りやプライドを損ねない対応を行っている。 特に排泄や入浴時には尊厳を傷つけないよう対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で常に本人が選択できる環境を整え、自分で選び決めるという喜びを感じられるような支援を行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況に応じた活動を提案はするも、本人の意向を大切に、個々のペースで生活が送れるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴を把握し、その人らしくおしゃれができるよう支援している。 また定期的に美容師の訪問があったり、女性であれば化粧、男性ならば髭剃り等を行える環境をつくっている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みは職員が把握しており、細かな献立の工夫が行えている。利用者と職員はできる範囲で、一緒に準備や片づけを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方に対してはその都度、捕食など必要な栄養が摂取できるよう支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、一人ひとりの口腔内の状態を把握しながら、適切な支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、声かけや誘導を行い、失敗を減らし排泄の自立に向けた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事内容など便秘予防への対応により、服薬に頼らない排泄を個々に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別入浴にて、ゆっくりと本人のペースで入浴できるよう、午前と午後に本人の意思を尊重した入浴サービスを行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身の状況や習慣に合わせた対応をしている。 また職員は室温調整にも気を配り、寝やすい環境を提供できるよう努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師処方薬の内容はファイルし、担当職員から他の職員に伝達し内容の把握に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた内容を職員とともに活動できるよう支援している。(野菜の収穫、花作り、洗濯、散歩、買い物、外食)
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、畑作業等、個々の希望に沿って支援している。また季節を感じていただけよう、季節の花の見学、外食、昔馴染みの地域の訪問など、一緒に外出できるよう支援している。

グループホーム青い鳥(2階)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族と相談のうえ、状況に応じて対応している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿うよう対応している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着き安心して生活ができる空間づくりを心がけている。また季節を感じていただけるよう、館内の飾りを行う工夫をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間、椅子、ソファなどの配置を状況に応じて変え、思い思いに過ごせる空間づくりを行っている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望などを聞き取りながら、使い慣れた物や、好みの物を持って来られることで、安心して過ごせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等の場所の表示を行い、館内の移動が本人自らの意思で行動できる工夫を行っている。